

# 令和3年度留萌地区の研究活動

研究部・留萌地区研修部担当

小平町立小平小学校

校長 小柳 豊

## 1. はじめに

留萌管内小中学校長会は、『和心一統』を指標として、留萌管内の子どもたちが健やかに、たくましく成長するために、よりよい学校経営を目指した研究と実践を積み重ねてきた。その推進に当たっては、様々な社会変化に伴って示される教育改革や子どもの生活様式の変容等を的確に捉え、時代に応じた学校経営がいかにあるべきかを考察し、校長としてのリーダーシップを発揮してきたところである。また、各学校が抱える学校課題を共通課題としてとらえ、その解決に向けて組織的・実践的に取り組んできた。小中での運営上での違いはあるものの、学校経営者として様々な課題に対しての共同研究推進をこれからも継続していく。



8月3日 管内校長会教育研究協議会

## 2. 研究計画

### (1) 研究主題と今年度の重点テーマ

新しい時代を創造し、豊かに生きるための確かな力を育む小中学校教育の推進

～ 社会に開かれた教育課程の実現を図る校長の在り方 ～

<テーマ3> 「主体的・対話的で深い学び」の実現

### (2) 研究推進の重点

- ①学習指導要領の基本理念は、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を「社会に開かれた教育課程」によって着実に育成することである。そのために、校長として「社会に開かれた教育課程」をどう捉え、どのように学校現場で実践するのかを検証し、校長個々の職能向上を図る。
- ②本年度の研究協議会は、研究主題に基づく3か年継続研究の最終年次の研究内容について研究発表等を基に協議し、校長の在り方について研修を深めるとともに、今後の新たな研究推進の方向性を検討するものとする。研究推進については、各市町村校長会と連携を図りながら研究・研修活動を充実させ、その成果を管内校長会の財産として積み上げていく。
- ③令和3年度道小石狩・千歳大会における提言発表に向け、プロジェクト委員会の活動を充実させ研究推進に努める。
- ④研究集録「和心一統」第52号を発刊し、研究の成果と校長会の足跡を記録に残す。
- ⑤道小・道中研究部、各市町村研究部及び関係機関との連携の強化に努める。
- ⑥留萌管内研究団体連絡協議会の会長・事務局長として、各種研究会の連絡調整に努める。

### 3. 研究活動の概要

(1) 第 69 回留萌管内小中学校長会教育研究協議会

○期 日 令和 3 年 8 月 3 日(火)

○会 場 小平町文化交流センター

- 内 容 i) 道小提言発表 矢藤 典彦(増毛町立増毛小学校)  
ii) 研究発表 西山 智章(苫前町立古丹別中学校)  
iii) グループ協議  
iv) 講評・助言 留萌教育局義務教育指導監 青木 順一 様

(2) 第 55 回留萌地区教育経営研究会 ※オンライン開催

○期 日 令和 3 年 9 月 27 日(月)

○内 容 i) 情勢報告及び質疑応答

稲上敏男(道小幹事)・笹川恒春(道小事務局次長)・坂本征人(道中幹事)

ii) 全体研修～講話「GIGA スクール構想の

具現化における校長のリーダーシップ」

NPO 法人ほっかいどう学推進フォーラム理事長 新保 元康 様

(3) 第 64 回北海道小学校長会教育研究石狩・千歳大会への参加 ※オンライン開催

○期 日 令和 3 年 9 月 10 日(金)

○第 8 分科会「これからの学校運営を担うリーダーの育成と校長の在り方」

※趣旨説明、提言発表は動画配信

<趣旨説明> 留萌市立緑丘小学校 秋葉 良之

<提言発表> 「管内の組織力を生かした人材育成と校長のリーダーシップ」

増毛町立増毛小学校 矢藤 典彦

○参加者 管内より 10 名の会員が参加

(4) 新任校長研修会

○期 日 令和 3 年 4 月 21 日(水)

○会 場 羽幌町中央公民館

4 名の採用校長に対し、校長会の意義や新任校長への期待、校長として力を高める研修活動等について説明・協議を行った。

(5) プロジェクト委員会

道小教育研究石狩・千歳大会第 8 分科会「リーダー育成」の提言発表に向けて、前年度より会議を重ね、発表資料を取りまとめた。令和 5 年度全連小東京大会で提言発表を担当することになっており、次年度に新たなメンバーで委員会を組織する準備を進めていく。

(6) 研究集録『和心一統』第 52 号の発行

(7) 全連小各種委員会調査への協力

### 4. おわりに

コロナ禍においても、感染防止に留意しながら、校長会としての研究の歩みを止めることなく、例年通りに研究協議会を開催することができた。道小提言発表、研究部の発表に加え、全会員に重点テーマ 3 に係る自校の取組や課題まとめたレポートを交流する形でグループ協議を実施することで、各校の課題解決に向けた具体策を策定する重要な機会となった。これから、3 年次継続研究の成果と課題をまとめて集約し、各校へ環流するとともに、次年次研究の方向性を研究部として示していく予定である。学習指導要領実施の中で、GIGA スクール構想の実施や令和の日本型学校教育の推進も視野に入れ、子どもたちに求められる資質・能力を育成するための実践を目指して、管内組織一丸となって研究・研修活動を推進していきたいと考える。